

＜診療参加型臨床実習の在り方に関するWGヒアリング＞

「離島医療・保健実習が目指すもの」

— 長崎大学医学部の取り組み —

長崎大学
兼松 隆之

(平成18年6月13日)

21世紀における 医療人育成の考え方

1. 医療人としての能力・適性に留意した人材選考
2. 人間性豊かな医療人
3. 患者中心、患者本位の立場に立った医療人
4. 多様な環境の中で育つ医療人
5. 生涯学習する医療人
6. 地球人として活動する医療人

(21世紀医学・医療懇談会第1次報告、平成9年)

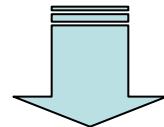
地域と連携した医学教育カリキュラム

－平成17年度－

	1年次	3年次	5年次	6年次
カリキュラム	医と社会	医と社会	臨床実習	高次臨床実習
対象	全員	全員	全員	希望者(6名まで)
期間	5月10・17日 6月7・14日	5月20日～7月15日 毎週金曜午後 (4H×8回)	9月～3月 各班月～金の5日間	4月～7月 5週間
場所	長崎市	長崎市	長崎市、五島市 諫早市、大村市 佐世保市	五島市
施設	大学病院22診療科 市内5医療施設	市内39診療所 市内6老健施設 長崎病院 ハートセンター	13病院、4診療所 社会福祉協議会 保健所 行政機関	五島中央病院
内容	病院体験実習 看護と介護の立場からの実習 保健学科との共修	診療所体験 老健施設体験 在宅介護 障害者リハビリ	離島・へき地医療 包括的保健・福祉 全人的医療 地域医療	診療参加型実習

なぜ、全員参加型の離島実習か？

- 日常よく遭遇する疾患の診療経験
- 患者の立場に立った全人的医療の実践
- 地域における包括的(医療・保健・福祉)医療への参加



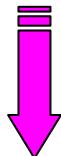
地域と連携した実践型医学教育



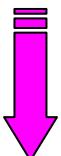
総合的な地域医療・保健学習の最適モデル

「地域と連携した実践型医学教育プログラム」

～現代版「赤ひげ」の育成を目指した
長崎県五島列島における包括的保健・全人的医療教育の実践～



平成16年度文部科学省企画
「特色ある大学教育支援プログラム」採択



<実習内容>

期 間:9月初旬～次年3月下旬(約7ヶ月間)

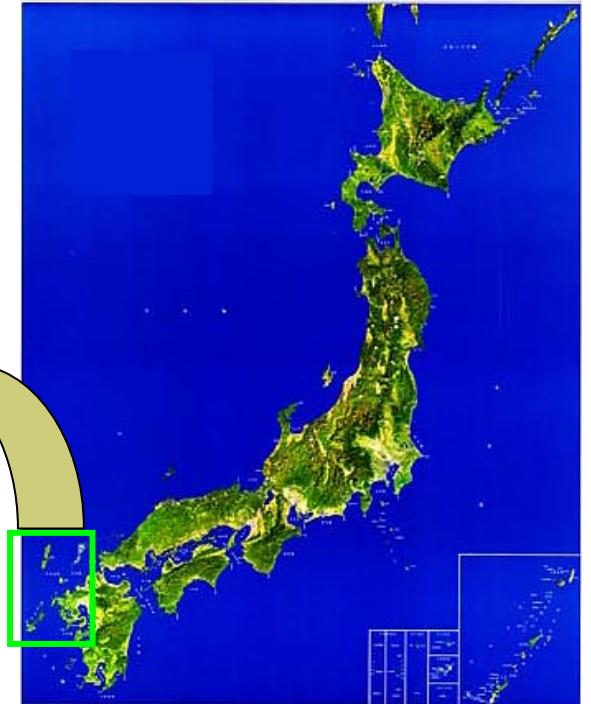
対 象:長崎大学医学部医学科5年生

編 制:6, 7名を1グループとして、全員が参加するカリキュラム

場 所:五島の病院、診療所、保健所、社会福祉協議会

特 色:5日間五島に滞在し、保健・医療・福祉の現場で体験実習

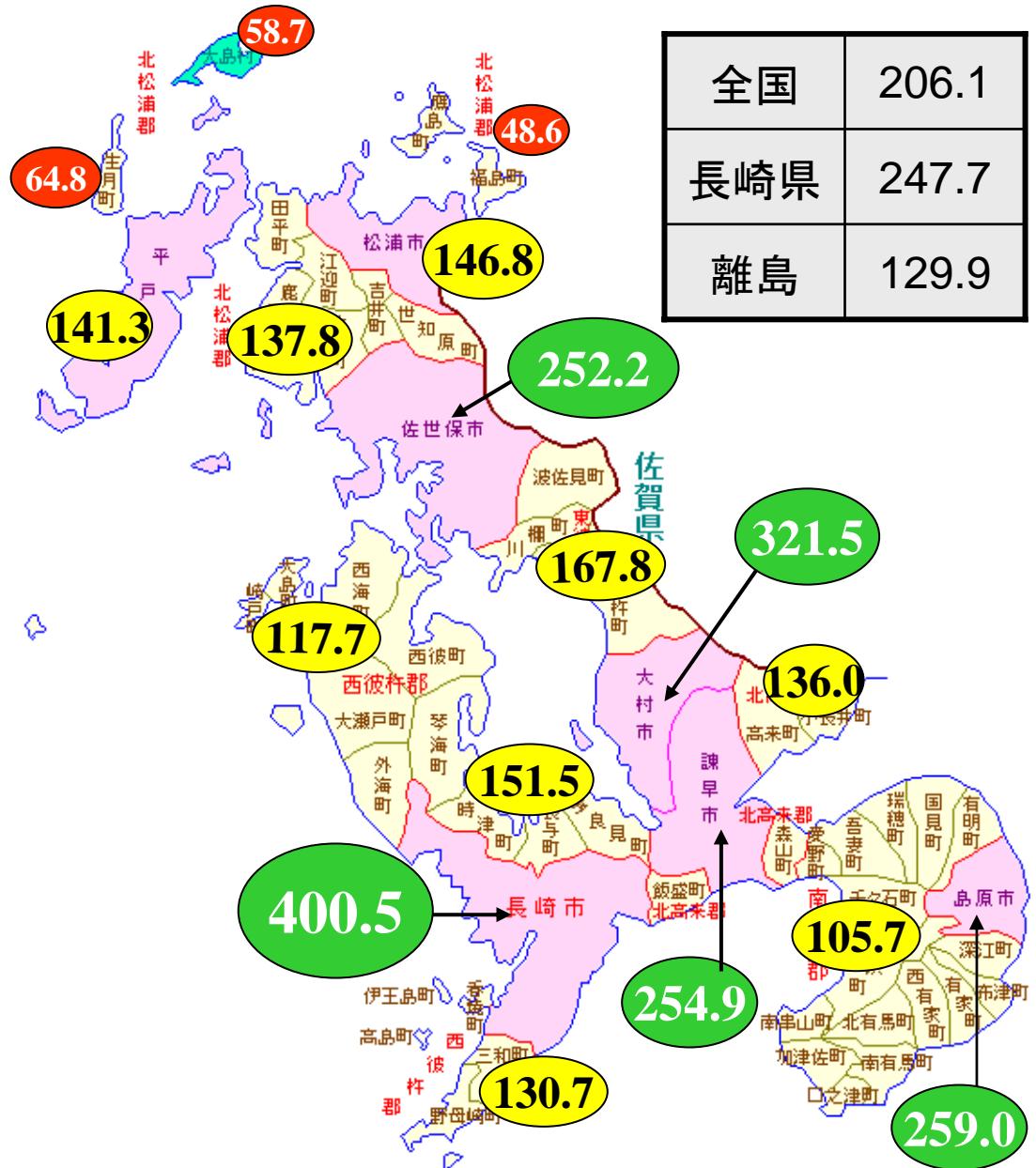
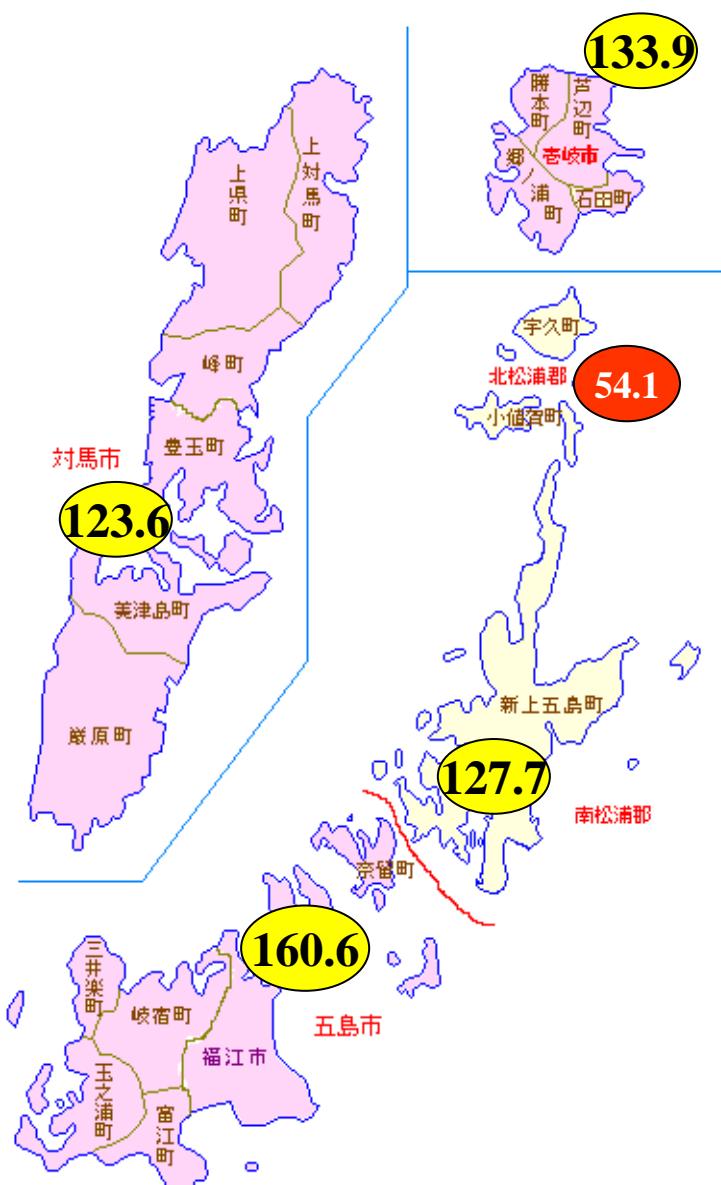
長崎県



長崎県内には、
約60の有人島を
含む、600余の島
が存在する。

長崎県医師数(人口10万対)

(長崎県医療統計:H14.12.31)



離島・へき地医療学講座

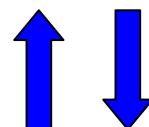
平成16年5月1日誕生

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

「離島・へき地医療学講座」



寄附



長崎県
五島市



長崎県離島医療圏組合五島中央病院

「離島医療研究所」



五島列島

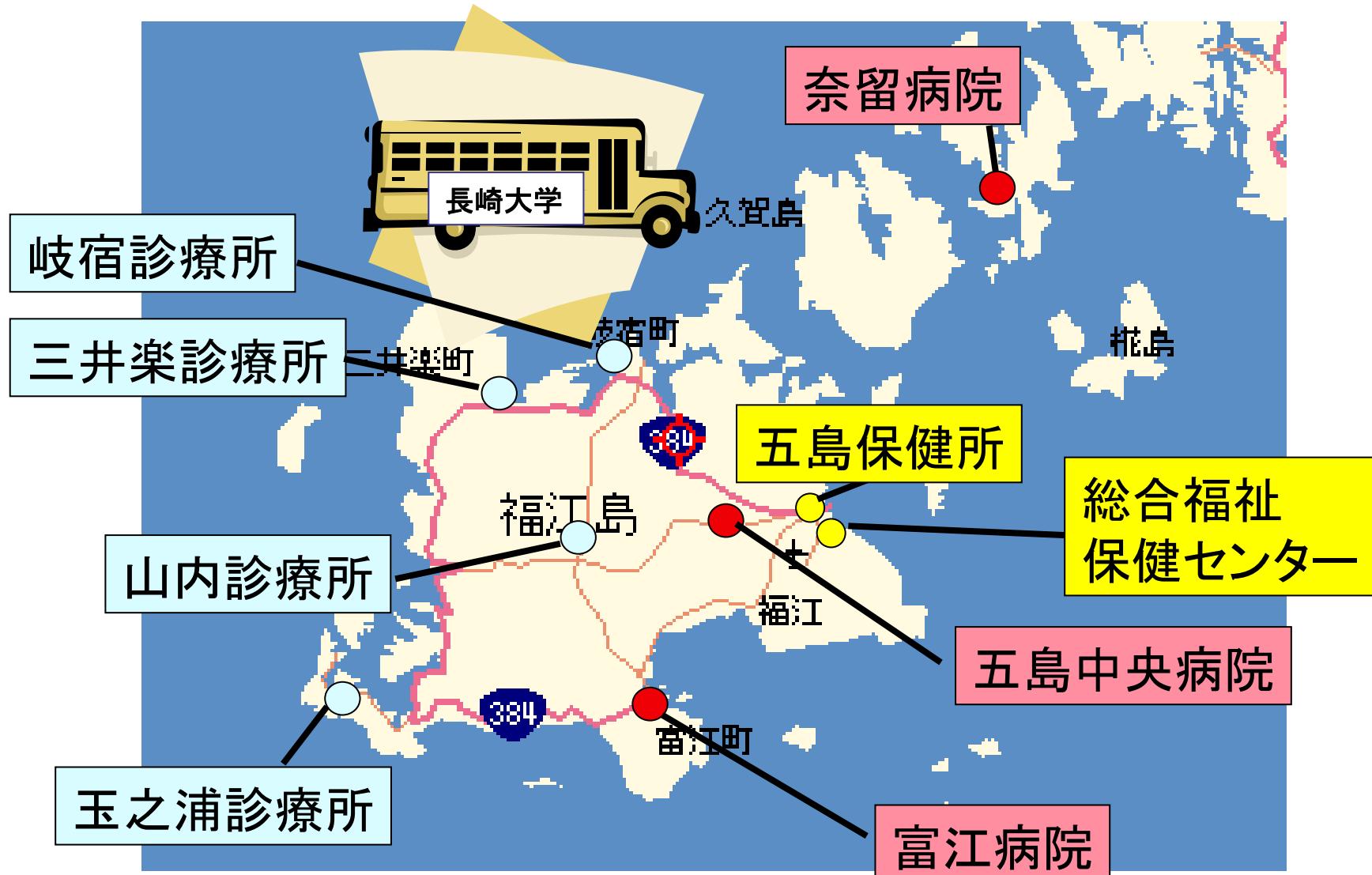


現代版「赤ひげ」

「包括的保健と先進医療を理解し、全人的医療を実践する医師」の育成



現代版「赤ひげ」育成ステージ



＜離島での医療実習＞





＜離島での保健・福祉実習＞





地域交流



全体的な学生の反応と声

高い医療レベルに対する驚きと再認識
暮らしに密着した医療からのインパクト

コミュニケーションが成功した充実感
保健・福祉業務実習における新鮮な体験



体験型の実習を希望する
離島ならではの実習を受けたい

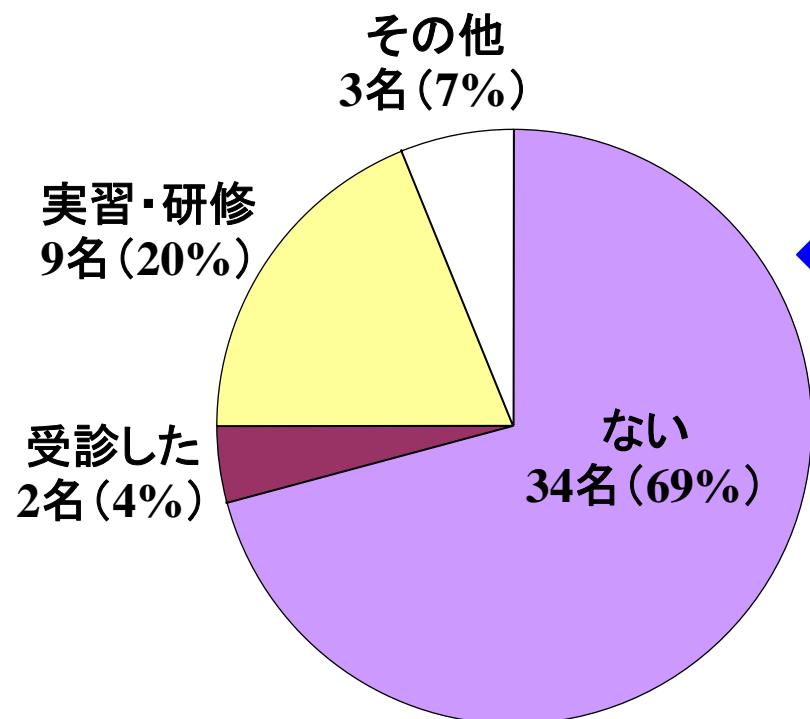
患者・利用者との充実した
コミュニケーションをとりたい

実習期間が短すぎる
高次臨床実習を五島で行いたい

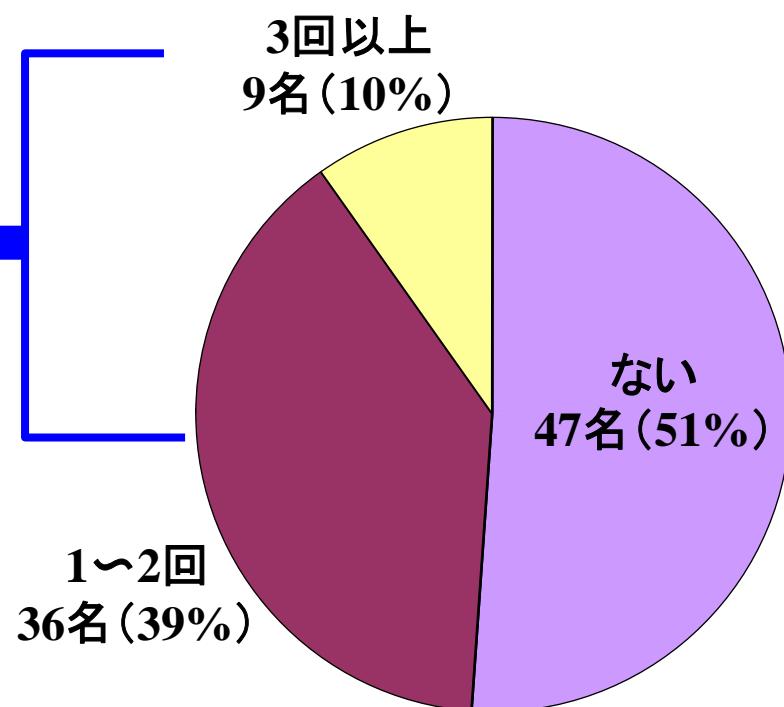
アンケート結果1

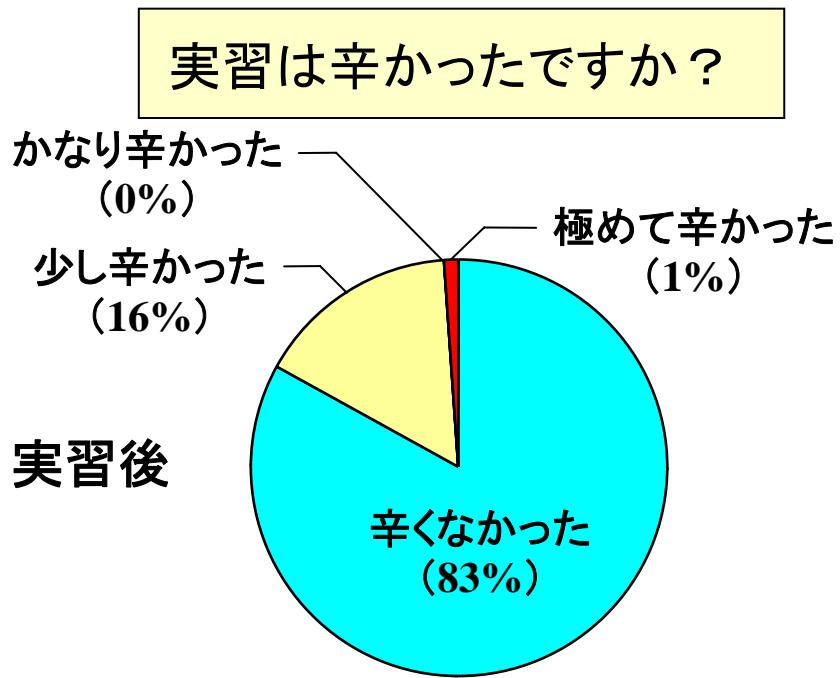
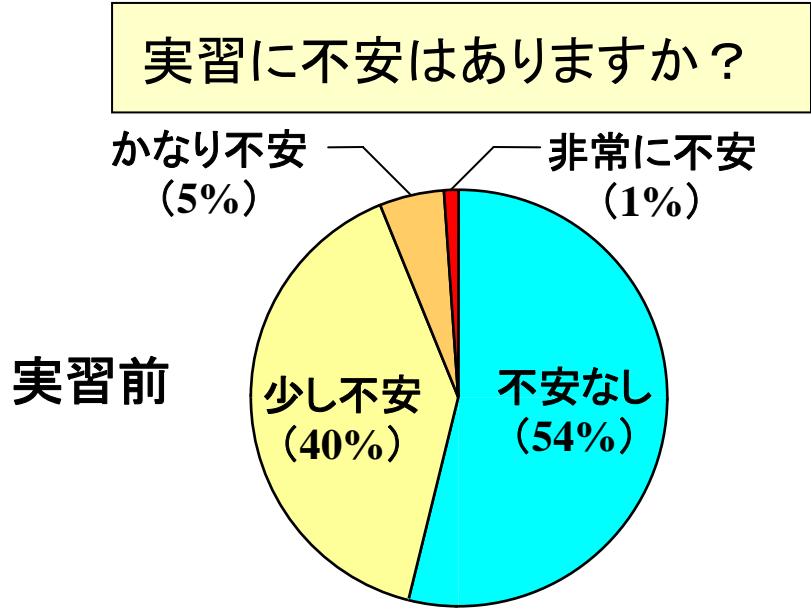
～長崎大学の医学生と五島～

五島の医療にかかわったことがありますか？(n=45)



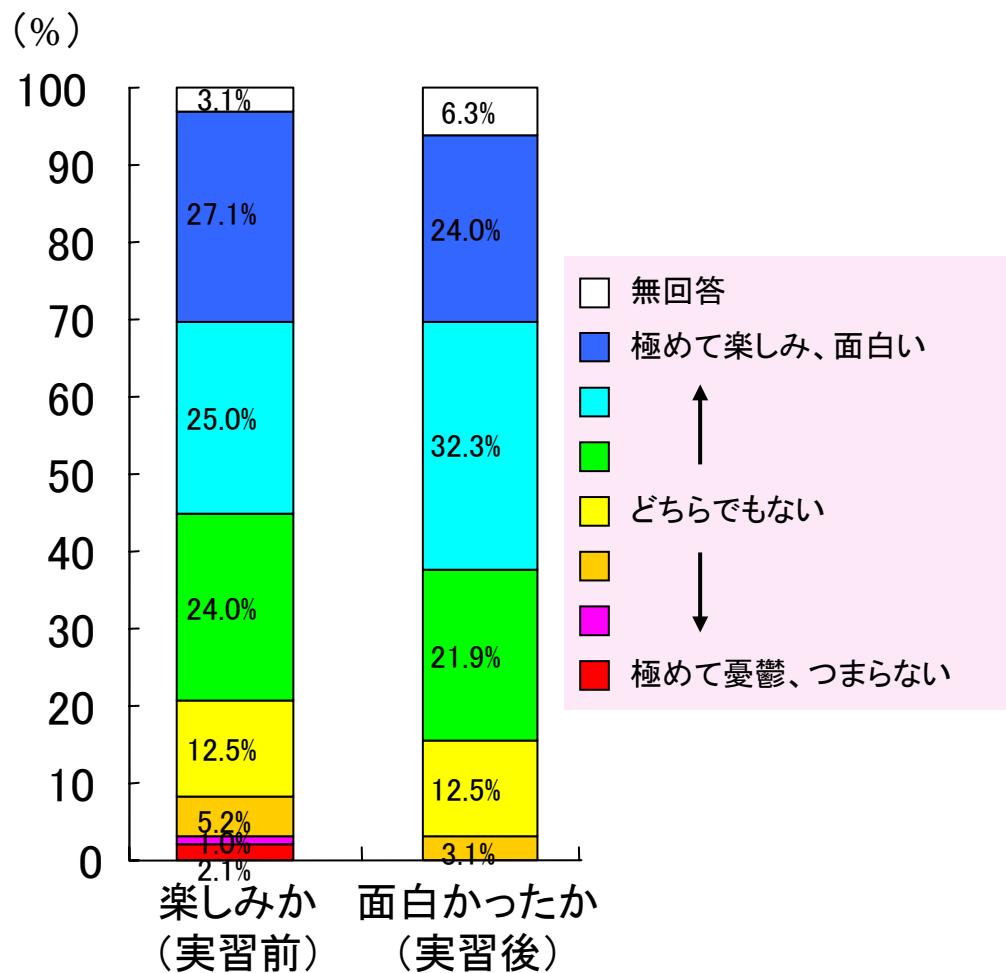
五島へ行ったことがありますか？(n=92)





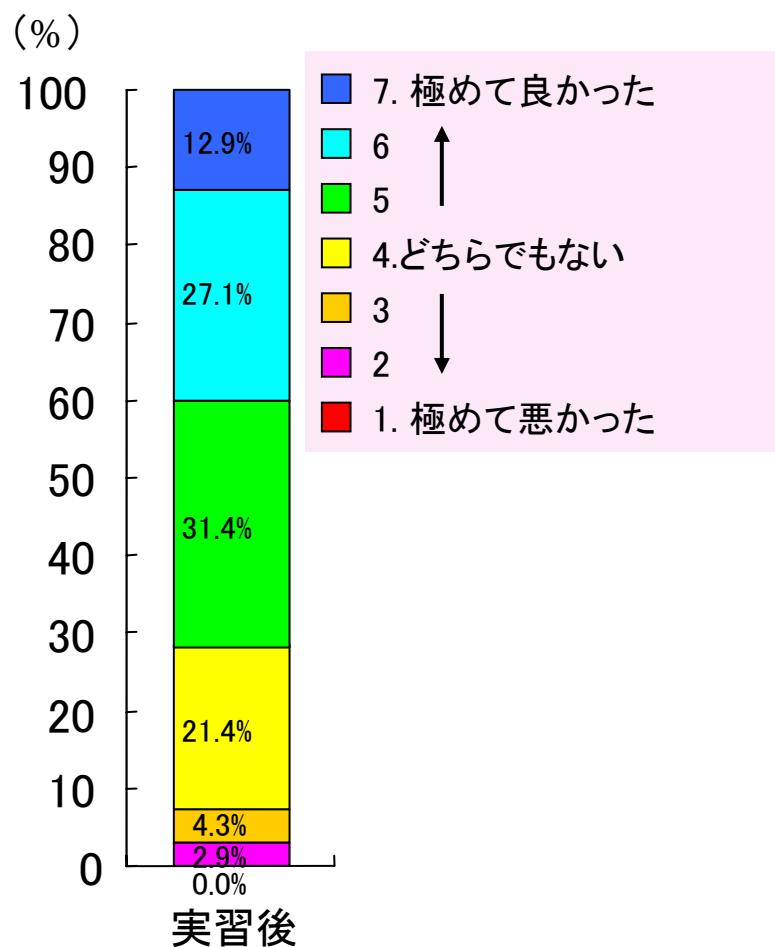
アンケート結果2

実習は楽しみか？ 面白かったか？

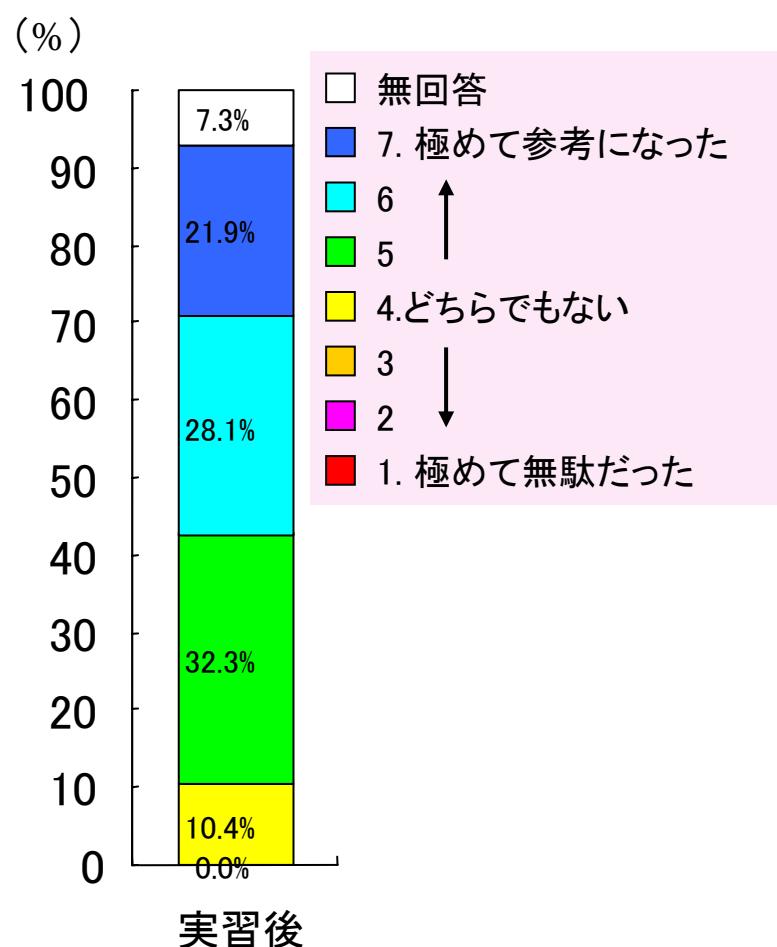


アンケート結果3

担当者からの指導は十分だったか？

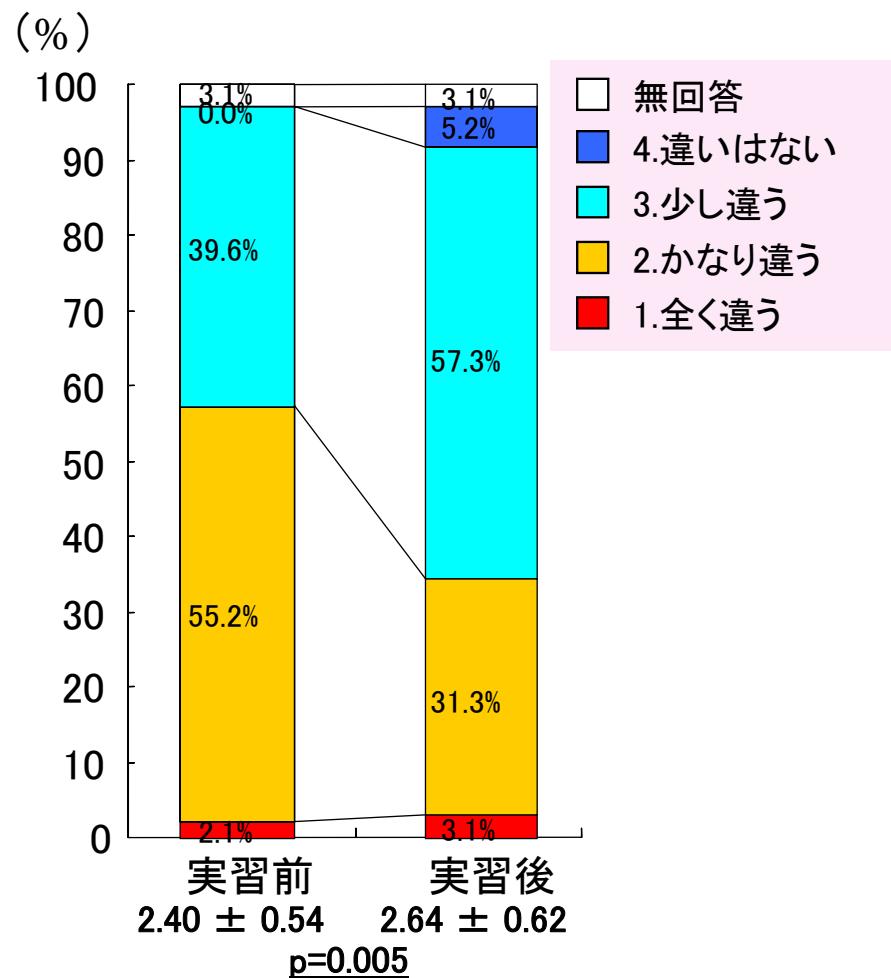


医師としての進路の参考となったか？

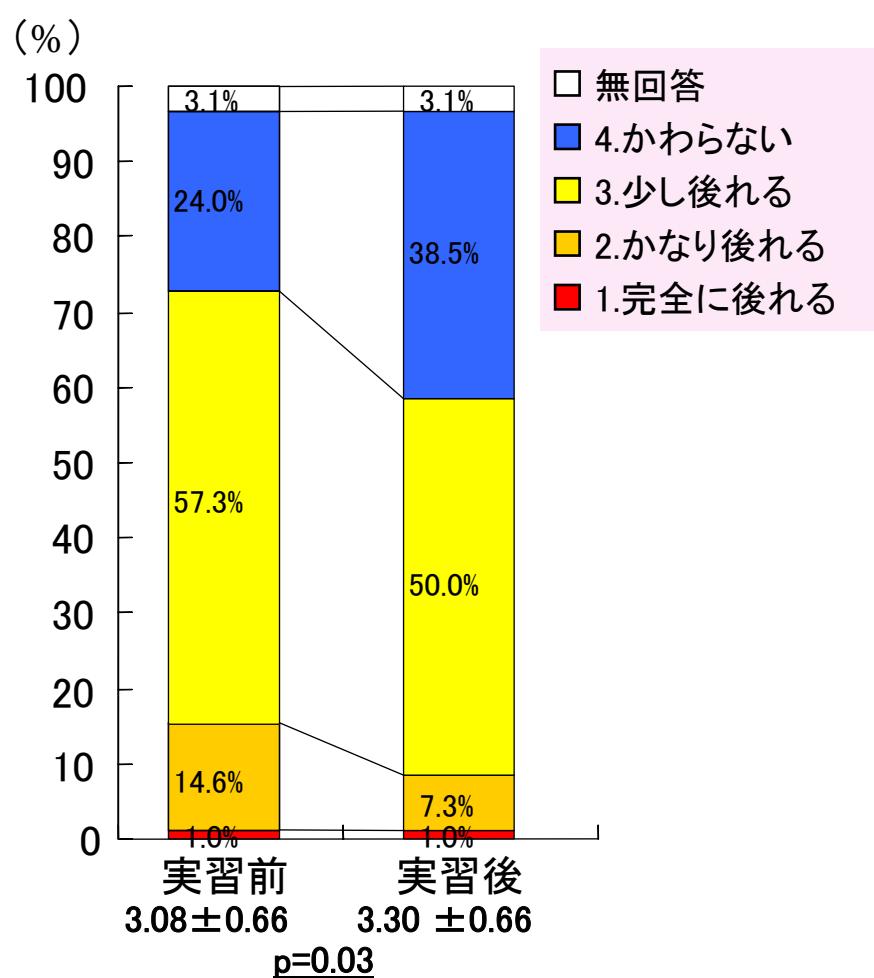


離島医療について 1

離島と本土の医療に 違いはあると思うか

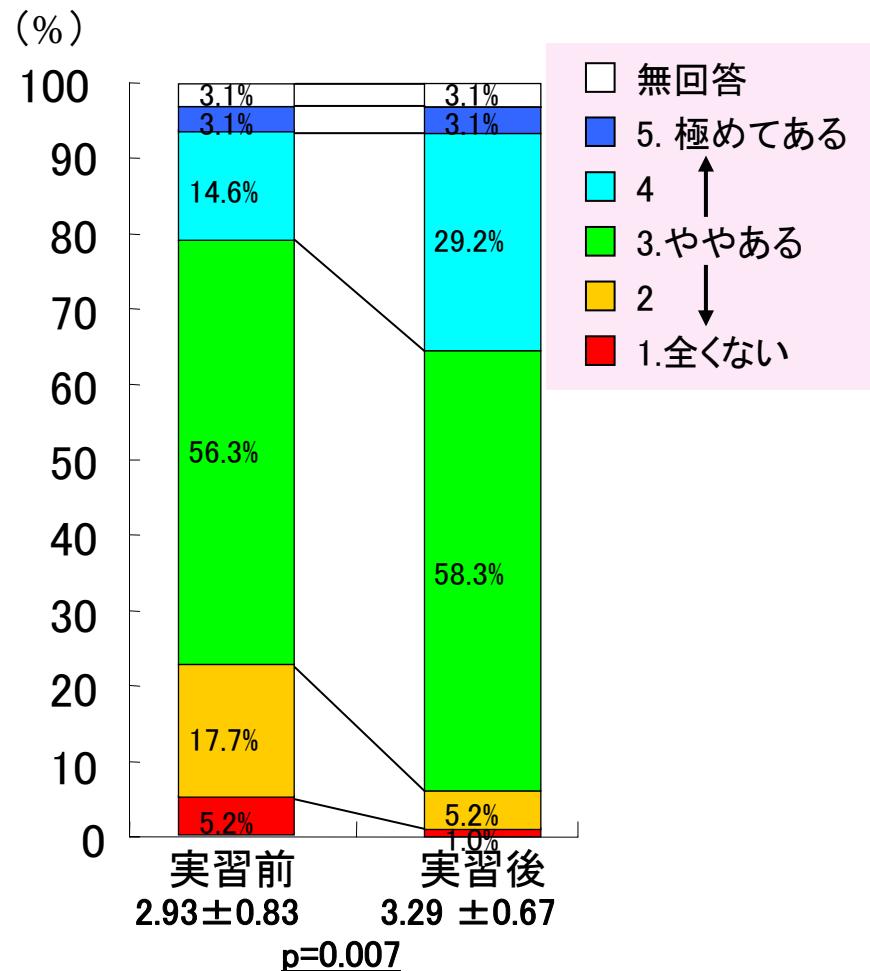


医師としての能力は 取り残されるか？

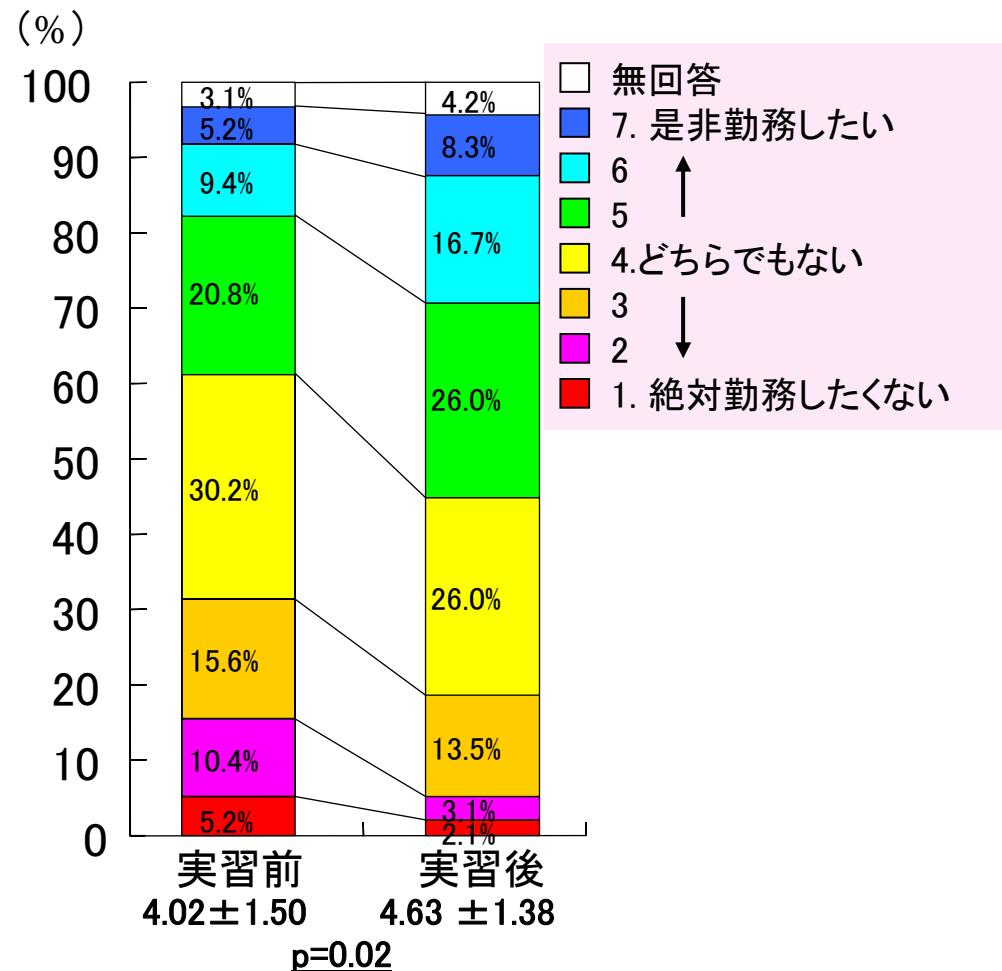


離島医療について 2

離島医療に興味はあるか？



離島で勤務したいか



問題点とその対処(1)

1. 実習施設の選定と依頼

医学教育の実績なし

2. 指導者側の問題

医学教育の経験がない

指導法での誤解

業務負担の増加

3. 学生側の問題

旅行気分の学生の存在
積極性の育成

4. 実習スケジュール

日常業務への支障

5. 実習期間の問題

短い実習期間

祝祭日の問題

6. 学生と指導者との連絡調整

距離的な問題

学生の希望と内容のギャップ

7. 評価の問題



直接交渉



講演会などでの指導者教育
指導への介入
実習施設の拡充



全体オリエンテーションでの指導
実習2日目での小括と意見交換



年間・週間スケジュールとの調整



高次臨床実習での充実
時間外の補講



学生と指導者との意見交換会
学生アンケート調査の実施
離島医療教育研究会の定期開催
離島実習支援サーバーの設置



問題点とその対処(2)

1. 経済的問題(実習推進費)

謝金、教育用書籍、パソコンなど
教官の旅費

2. 学生の宿泊施設

男子学生：県職員の独身寮
女子学生：五島中央病院の職員官舎
居住環境の整備

3. 長崎一五島間の移動

高速船で往復約1万円

4. 実習施設への移動

複雑な地形

未発達な交通事情

5. 学生の生活サポート

不案内な土地での生活

寝具、移動などの問題

レクレーションへの対応

6. 不測の事故などへの対応

移動中の事故

実習での事故

7. 天候不良などへの対処

交通機関(特に海上)の麻痺

特色GP
の活用

鐘韻人間科学振興基金の活用

片道分のチケットを
鐘韻人間科学振興基金より支給

学生実習用車両「長崎大学号」の整備
ドライバーの雇用

離島医療研究所で対応
学生担当事務補佐員の雇用
鐘韻人間科学振興基金の活用

医学生総合保障制度への加入
学生の緊急連絡網整備

離島医療研究所からの助言・調整
補講体制の整備



長崎大学医学部の離島医療・保健実習を成功させる鍵

1. 自治体(県、市、町)、病院、診療所、保健所等および地域住民の協力
2. 全学的な支援
3. 経済的な側面からの支援
 - ① 「特色ある大学教育支援プログラム」採択
 - ② 長崎県、五島市からの寄付(寄附講座設置)
 - ③ 特定公益増進法人“鐘韻人間科学振興基金”からの援助
 - ④ その他の寄付
4. 教育に情熱を持つ教官



離島・へき地医療学講座
前田 隆浩教授

<経歴>
・血液内科専攻
・離島の病院の勤務経験あり
・前長崎大学医学部附属病院
総合診療部助教授

離島をステージとした医療人育成

1. 医学教育

5年生離島医療・保健実習、6年生高次臨床実習

2. 研修医教育

1) 長崎大学病院群卒後臨床研修プログラムの離島医療総合コース

* 長崎大学病院群の協力病院

(五島中央病院、上五島病院、対馬いづはら病院)

2) 五島中央病院の研修医誕生

3. 大学院生教育

社会人特別選抜制度の活用

4. 医療人教育

保健学科、歯学部、薬学部 etc.

離島における医療問題(不均衡な医療資源の配置、老齢化)は都市部にも共通の問題である

